



「尚徳」10月号 第504号 平成26年10月31日

鳥取大学附属小学校 学校便り

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



## 「日々の努力を大切に」～講演会に参加して～

鳥取大学附属小学校 副校長 谷口 英昭

先日、「嘘のない稽古」という題で鳥取城北高校相撲部監督の石浦外喜義副校長のお話を伺う機会がありました。

この城北高校は、相撲が強く全国大会や国体で何度も優勝している学校です。卒業生には大相撲の力士になっている人が何人もいます。しかし、最初は、土俵もなく、野球部のグラウンドの片隅で苦勞しながら練習を始めたのだそうです。ゼロからのスタートといっても過言でないでしょう。それが、3年後には、全国大会に出場するほどになっていきます。どうしてそこまで躍進できたのでしょうか。



監督は、常に、自分自身に対し「自分が強くなりたいと思ったら、稽古しかない。嘘でごまかしても、決して本物の力はつかず、勝負の場で結果として現れる。日々の努力、今日の稽古が大事だ。」と言い聞かせているとおっしゃいました。

学校や周囲の方々の協力も確かにあったでしょう。しかし、一番大切なのは日々の努力であり、そうした日々の努力の積み重ねがあったからこそ相撲部を強豪校に押し上げたのだと私は思いました。

石浦監督の言葉は、わたしたち大人はもちろん、子どもたちにも当てはまります。

子どもたちには、前期の修了式に「自分はどんな努力をしてきたか振り返り、後期に向け、自分の目標をきめましょう。そして、明日に伸ばさず日々少しずつでも努力を積み重ねましょう。そうすれば必ず皆さんの力は伸びるでしょう。期待しています。」と話しました。

子どもたちががんばっています。私たち大人も、子どもたちに負けずに日々努力していかななくてはと思いました。

## 平成26年度 附属小学校研究発表大会 ～ ご協力ありがとうございました ～

10月25日（土）に、附属小学校研究発表大会を開催しました。

当日は、秋晴れの中、県内外から約300名の方がご参加くださいました。

今年度より、研究主題を「これからの教科・領域のあり方を問う」、副題として、～思考を高める学びの探究と協同をめざして～と設定し研究に取り組んでいます。



【意見のある人？（1年 生活科）】

公開学習では、子どもたちの思考を高めるための単元設定や教材化等の工夫、学びの質を高める子どもたち同士の関わりの様子などを参加者の方々に参観していただきました。そして、午後からの教科・領域別分科会において熱心に協議していただきました。

また、大東文化大学名誉教授の須藤敏昭氏に「学びと教えと遊び」と題してご講演いただきました。本校が研究テーマとして掲げている「教科・領域のあり方」に関して、これまでの教科・領域の歩みを意識して取り組むことの大切さや、諸外国も含めた教育実践にかける責務の重大さについてご示唆いただきました。



なお、今年度も、研究会開催に関しまして、懇話会の役員の皆様を中心として、保護者の方々に多大なるご協力をいただきました。

保護者の皆様には、お子様の下校後の対応、そして、懇話会役員の方々には、受付や弁当等の対応、臨時バス乗車児童の安全管理等、お世話になりました。

参加された方から、「役員の方が笑顔で対応してくださり、とても心温まる会でした。」「わからないことを尋ねたら、関係する先生にすぐに連絡をとってくださり助かりました。」といった感想も聞かれました。

本当にありがとうございました。

## 附属特別支援学校との交流（2年）

附属小学校と附属特別支援学校との交流を2年生を中心として継続的に行っています。

10月11日（土）に附属特別支援学校で開催された「ふれあいまつり」に、2年生が9名参加しました。



【手話を交えて歌いました】

まず、附属特別支援学校の児童・生徒さんと手話を交えた歌や、ダンスなどを通して交流を深めました。ステージで手本を示してくださる生徒さんに従って、手足を動かし、歌ったり踊ったりしました。

そのあと、会場に展示されている作品を鑑賞したり、学習の一環として取り組んでいる催し物に参加したりしました。

引率して下さった保護者の方と一緒に、楽しそうに活動したり食事をしたりしている姿が見られ、親子の触れ合いの場にもなったと感じた一日でした。



今後も、こうした交流が有意義なものとなるよう、工夫・改善していきます。

## 春川教育大学附設初等学校との交流

フェリー事故の影響で今年度の直接交流会は中止となりましたが、作品の交流は、計画通り実施しています。今年の夏休みには、春川教育大学附設初等学校から、韓国の教科書、おもちゃ、学校要覧や学校アルバム、本など、たくさん送っていただきました。

附属小学校も日本の教科書や日本を紹介できるような本、子どもたちの絵などを送ろうと準備しているところです。状況に応じて柔軟に対応し、伝統ある交流を今後も続けていきたいと考えています。保護者の皆様、今後ともご協力をお願いいたします。

なお、11月20日（木）に行います人権教育参観日の際には、送っていただいた物を2階の創作活動教室Ⅱに展示します。ぜひ、参観日においでいただき、品々をご覧くださいませよう重ねてお願いいたします。



【 韓国の教科書 】

## 11月の主な行事予定

- 3日（月）文化の日
- 4日（火）教育実習開始（～17日）  
冬服衣替え
- 5日（水）6年個別懇談（～7日）
- 6日（木）懇話会執行部会・常任委員会  
全校一斉造形遊び
- 10日（月）集金引落日  
校内読書週間（～14日）

- 11日（火）鳥取市児童話し合いの会  
附属幼稚園との交流会（1年）
- 12日（水）おはようお話の会イベント（昼休憩）
- 13日（木）市連合音楽会参加（5年）・お弁当の日
- 14日（金）マラソン週間（～28日）
- 18日（火）委員会活動
- 20日（木）人権教育参観日
- 23日（日）勤労感謝の日
- 24日（月）振替休日

マラソン大会は、この期間内に行います。期日が決まりましたら、担任より保護者の方にお知らせします。

## ～教職員シリーズ～

### 「自分の信じた道を」

附属小学校 木原一彰

2014年のノーベル物理学賞が、中村修二（カリフォルニア大学教授）ら3人に贈られることが決まりました。これは、青色発光ダイオードの研究と実用化への功績が認められたことによるものです。

中村氏は、1954年生まれで工学博士です。1977年日亜化学工業に研究員として入社しました。1993年、実用レベルの青色発光ダイオード開発に世界で初めて成功するのですが、それまでの道程は決して平坦なものではなかったようです。

中村氏は、「入社からの10年間は、数多くの失意と、少しばかりの成功の中で『売れる技術』を開発することの大切さを痛切に感じさせられた時期だった。今思い起こせば、この間に経験したすべての仕事は、青色LEDの開発に成功する土台になったことは間違いない。」と語っています。研究から製造、品質管理はもちろんのこと営業活動で顧客の意見に耳を傾け、クレーム処理まで対応したそうです。そういった経験の中で、自分を信じ、自分の考えに従って研究や開発、仕事に取り組む信念をもつことができたのだそうです。

中村氏に対しては、所属していた企業に対して、発明の正当な対価を求める民事裁判を起こしたことなどから、肯定的な受け止めばかりではないことも事実です。しかし、志をもって自分の信じた道をひたすらに進む中村氏の生き方には、徹底的に批判してもなお失われることのない輝きがあるように思えました。

